

事業所実施による成果と課題等

(令和3年度 こぶし事業所)

	課 題	今年度の取組
1	福祉施設従業員としての自覚と組織人としての意識を向上させ、利用者1人1人に合ったサービスの向上を目指す	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉施設の従業員として求められている虐待防止・人権擁護の意識の向上を目指し、外部研修に積極的に参加する。 ⇒コロナ禍で前半は外部研修に出席することができなかったが、後半は臨時職員を含めて半数が出席することができた。引き続き4年度の課題とする。 ・利用者個々に合った指導を充実させるため、事業所の方針を徹底させる。 ⇒指導時間や気持ちの多くがコロナ感染予防に向けられた。しかし、感染者を出してしまい、その後の対応を含めて大きな経験をした。利用者への個別の支援をしていく点での不十分さは残った。評価制度の導入と併せて今後の課題として追及をしていきたい。
2	現場責任者会議(主任会議)の役割の認識と意識の向上を目指す	<ul style="list-style-type: none"> ・規程やマニュアルの整備、利用者の支援について主任会議で論議を深め、主任会議構成員の役割や意識について会議の中で認識を高める。 ⇒処遇困難利用者の対応について主任会議の議題にしたり、相談支援の専門家を入れた意見交換をするなど、全体の議題として取り組む努力をしてきた。
3	第三者評価で指摘された課題を改善する	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通して、課題ごとに主任会議で到達点を確認して改善を進める。 ⇒家族会(保護者会)がコロナ禍で開かれず、代わりに事業所の「近況報告」を3回発行し、コロナ感染予防の取組を保護者にも呼び掛けた。 ⇒今年度から訓練費がスコア方式になり、その徹底と職場改善に時間を費やした。
4	中・長期計画の推進について	<ul style="list-style-type: none"> ・長期的計画として、新事務所建設の中に多機能型B型施設を開設する。 ⇒事業所建設で、想定外のことが次々に起き、その対応で終始した1年であった。 ・中期的目標として、第三者評価者の指導に基づき、「勤務評価制度」を全従業員に導入し、それに基づく賃金体系、人事異動等を実施して、事業所の方針の徹底と意識の向上を図る。 ⇒令和2年度、3年度と勤務評定を実施して、改善点が出てきた、引き続き4年度に向けて改善予定である。 ・当面の課題として、利用者の高齢者対策を兼ね、東京都の指導に基づきA型事業所内に「利用契約のグループ」を設置する。 ⇒B型開設の前段階として、利用契約のグループを作ることの論議を進めたが、事務所建設に追われ進まなかった。